

レビュー

第1回「九州」半導体産業展

(上)

9月25、26日の2日間、第1回「九州」半導体産業展が福岡市のマリメッセ福岡B館で開催された。デバイスメーカーや装置、部材メーカーなど261社が出展し、主催者が目標としていた5000人を大きく上回る7314人が来場した。



テープカットの様子（前列左から甘利氏、安浦氏、服部氏）

初日の25日は、開場直前にテープカットが行われ、実行委員長の安浦寛人氏（九州大学名誉教授）、福岡県知事の服部誠太郎氏、自由民主党の

一貫生産可能になる」と、その意義を強調した。テープカット後、甘利氏が「半導体政策にみる日本経済復活の道筋」と題して講演した。甘利氏

All Around)は半導体微細化のスタートラインを引き直すものであり、既存技術で追いつくのは困難でも横並びで競争するのであれば勝機はある

を推進するべき技術だと述べた。展示会場では九州に立地する半導体デバイスメーカーである三菱電機(株)、ルネサス エレクトロニクス(株)、東芝グループ、日清紡マイクロデバイス福岡(株)らがブースを設けた。三菱電機は19

で行っている先端パッケージの取り組みを紹介。日清紡はフアンドリリーサービスを中心に事業を紹介し、福岡の前工程および佐賀にあるグループ会社で後工程まで手がけられる対応範囲の広さをアピールした。

会場は多数の来場者で賑わった。会場は多数の来場者で賑わった。会場は多数の来場者で賑わった。

九州初の半導体に特化した展示会

7300人超が来場し会場は大盛況

半導体戦略推進議員連盟会長で衆議院議員の甘利明氏らが列席した。安浦委員長は「新しい半導体産業復興の機を迎えた」と述べ、九州の半導体産業の活況を称えた。また、服部知事は北九州市で台湾のASEが進出に向けて用地取得の仮契約をしたことを紹介し、「実現すれば先端半導体を前工程から後工程まで九州で

は講演のなかで、これまで電子機器の性能を上げる一部品だった半導体が、社会全体を制御するものへと役割が変化している」とコメント。国際政治上、それを握られたら生殺与奪権を奪われてしまつものが半導体であるとし、最先端半導体への挑戦は必須であるとの認識を示した。そのうえで、米IBMのGAA(Gate

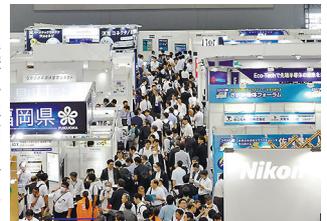
と強調。Rapirus(株)の量産化に向けた取り組みの意義を語った。また、NTT(日本電信電話(株))が実用化を目指す光電融合技術「IOWN」についても言及。「DXの完成形にとって重要な」とし、先端微細化とも

67年にIC工場を熊本に設けた「シリコニアランド」の先駆的な存在で、ブリスでは現在注力しているパワーデバイスを中心に同社の九州地域における事業展開を紹介し、開発中の8インチSiCウエハも披露した。ルネサスは大分工場

産業振興が盛んなことも九州の特徴で、会場では福岡県、熊本県、佐賀県、長崎県、沖縄県が地域の取り組みや地元企業を紹介するブースを出展。開催地である福岡県は最大規模での出展で、公設機関としては全国で唯一、3次元半導体の研究開発

た「福岡半導体リスキリングセンター」の活動を紹介するコーナーを設けた。福岡半導体リスキリングセンターは、前身団体を含めると20年の歴史を持つデジタル人材教育機関で、半導体を作る側だけでなく使う側に着目し

たカリキュラムを設けている。特に組み込みソフト系の講座群が利用者から高く評価されており、福岡にとどまらず、九州ならびに全国で活躍できる人材育成を志向していることも特徴だ。このほか、若手人材の獲得、育成が喫緊の課題になっていることを背景に、学生向けのコンテンツが豊富に設けられた。九州を中心に二十数校もの大学・高専が参加し、学生向けの企業紹介プレゼンやセミナーが行われた。企業ブースでも学生をターゲットとした展示が設けられ、東芝デバイス&ストレージ(株)は半導体ウエハや製造過程のサンプルとプロセスを紹介するイラストを展示し、訪れた学生に説明員がレクチャーを行った。(副編集長 中村剛)



会場は多数の来場者で賑わった

